

○4番（山口 等君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんおはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまから山口等の一般質問をさせていただきます。

今回は、3項目の予定をしております。

まずはじめに、まちづくりについて。

2つ目に、子育て支援について。

3つ目に、消防行政についてであります。

では早速、質問に入らせていただきます。

まずはじめに、まちづくりについての中の、コミュニティ広場設置補助金制度の拡充についてでございます。

まず、この写真をごらんください。これは地区のグラウンドゴルフ大会の様でございます。このようなコミュニティ広場を使用してのグラウンドゴルフ大会、またゲートボール大会を楽しまれている方がたくさんおられます。この競技は、年齢男女を問わず、だれでもが参加できて、健康づくりと、地域の皆様方のコミュニケーションが図れ、健康的でとてもいいスポーツだと思っております。

このコミュニティ広場に関する質問でございますが、コミュニティ広場を設置する場合の補助金制度は現在どのようになっているのか。概要について御質問いたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川つながる部長

○平川つながる部長〔登壇〕

おはようございます。

ただいま、コミュニティ広場の助成金についての御質問頂戴いたしました。

概要についてでございますが、平成 25 年の4月1日に、現在のコミュニティ広場の設置補助金制度を設けております。これにつきましては、区が新たにコミュニティ広場を設置する場合、おおむね 300 平米以上の面積を要するというような広場、これを対象にいたしておりまして、限度額を 100 万円設定しております。補助対象経費の 60%、100 万円の限度額のうち、補助対象経費の 60%を交付するというような、大まかな概要でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

今説明ありましたが、現行の制度。新しくコミュニティ広場を設置する場合ということございまして、公園等の既存の施設、特に便所等の附属施設ですね。こういったところの改修には、現行制度では補助の対象になってないということでございます。

これは地区の近くのトイレなんですけど、これが附属施設の1つですけど、これはもう昭

和時代にできておる便所でございます。

これも、恐らく他の地区なんですけども、昭和時代に建設された、ちょっとこう臭突と言いますかね、そういうのが見受けられるトイレでございます。

中を確認してみますと、男子用のトイレがこんな状態で、小便するところですね、こんな状態の状況でございます。そして、大便するところもこんな段差があるというような状況で、特にきれいにですね、皆さん方、地区の方のおかげできれいに管理はされております。

そういったところでですね、今現在、バリアフリーとかユニバーサルデザインとか、そういったいわれる現代なんですけども、今の時代に合わない旧式の施設もたくさんあるようでございます。

子どもたち、高齢者の方も安心して使えるような施設に改修する必要があるんじゃないかと。それでですね、地域住民の交流の場であるコミュニティ広場。これの既設の改修についても、ぜひ補助の対象にさせていただきたい。（「それ早く中止したら」と呼ぶ者あり）

このことを取り組むことは考えておられるのかどうか、お尋ねいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

お答えしたいと思います。

まあ、こういうやる気のある地区ですよ。それと、やっぱり御不便に思われているということなので、御要望にお応えして、その制度は柔軟にやっていきたいというふうに思っています。

ただ、今まで私どもとすれば、そういったことは、まだ一言も聞いてないんですよ。一言も聞いてないんで、聞いていないところで制度をつくるっていうと空箱になりますので、それはぜひ、なんていうんですかね、御要望をお寄せいただきたいってということと、もう一つは、よく議会の中で議論をしてほしいと思うんですね。やっぱこれ総体として、これ必要だということで、これ財源を伴う話にもなりますので、その場合は、これこれを削れということもあわせて、議会から御指導を賜ればありがたいというふうに思っております。

全部要望ば応えるとですよ、1兆円くらいなりますもんね。

あと、借りたお金は返さんばいかんと思っとですよ。

ですので、そういうことでぜひお願いをしたい、このように思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番山口等議員

**○4番（山口 等君）〔登壇〕**

樋渡市長の3期目の公約の1つにですね、子どもの遊び場、公園整備ということが掲げられております。

新しい公園、遊び場等をつくる計画がえられるのか。また、どのような公園設備を取り組まれるのか、お尋ねいたします。(発言する者あり)

○議長(杉原豊喜君)

樋渡市長(発言する者あり)

○議長(杉原豊喜君)

市長、答弁を。(笑い声) 答弁を。

静かに。

○樋渡市長〔登壇〕

なかなか、アドリブが僕もふえてですね。

まあいろんな、ちょっと要望があろうかとは思うんですね。ただこれ、新しい公園、遊び場を単独でつくるっていうのが、ちょっとこう、かなりまた、これお金を伴う話にもなりますので、例えば区画整理事業であるとか、そういった事業に附帯して、付随して行うっていうのはあると思うんです。

それと、もう一つこれ、吉川議員さんとね、甘久、甘久を回りよったとですよ。そいぎ、1番多かった要望が、この遊び場公園やったですもんね。ですので、これから恐らく、川良地区であるとか、甘久もそうなんですけど、各、例えば山内だったり北方だったり、そういう、なんていうんですかね、このポケットパークというかね、そのでっかい公園じゃなくて、という要望が、絶対こう来るんだらうなっていうふうに思っていますので。まずね、こういったポケットパークというのは、補助金の制度があります。あるんですよ。あるんですが、それだけではとても、ちょっと厳しいということがあった場合についてはね、その制度について拡充をはかっていきたいと思えますけれども、これもね、やっぱりですよ、もう地元なんです。地元が、なんていうんですかね、ここを公園にこうしてほしいと。これ地権者との関係とか、ものすごく難しくなってくるんですよ。それを行政にちょっと丸投げされるとね、もうかえってそれは進まなくなることになると思えますので、ぜひ、その地元で、まあこれは区単位になると思えますけれども、きょう、川原の区長もお見えになってますけれども、ですので、そういうね、なんていうんですか、区単位でよくこう話をしてもらって、1回我々とお話をしてほしいなというふうに思ってます。これは108かな、9かな。各自治区、同じ話でありますので、それをぜひお願いをしたいなというふうに思っております。

○議長(杉原豊喜君)

4番山口等議員

○4番(山口 等君)〔登壇〕

この写真はですね、ちょっと道路で、路地で遊んでいるような状況の子どもたちです。

これは近くの天満宮です。非常に、最近はですね、子どもたちがこの天満宮で遊ぶ光景がよく見られて、多いときは恐らく20名くらい近くの子どもたちが遊びに来るんじゃないかと

思います。

それで、新しくコミュニティ広場をですね、今言われた 300 平米以上設置する場合の補助金が、補助金対象の 60%。そしてまた 100 万円というようなことでございますが、こういったところに、仮に遊び場をつくるというようなことになりますと、造成して真砂土等を入れたり、またフェンスの設置とかベンチの設置、また便所、手洗い等を設置すれば、今の補助金の金額ではどうしても不十分じゃないかというようなことも考えられます。ぜひ、この辺の補充拡大をですね、補助の拡大をですね、ぜひお願いしたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

初めて聞きましたよ。調整地の場合は、公園にするというのは可能は可能なんです。まあただし、お金もかかります。これ 100 万じゃ、とても今の補助じゃ足りないと思うんですけども、これこそね、地元でまとめて持ってきてください、はい。その上で議論をしないと、もうなんでも要望合戦になっているんですよ、はい。

借りたお金は返さないといけないというのと同じで、やっぱりね、こう要望合戦になると、とてももうこの議会たまらなくなりますので、一旦ちょっと精度を上げた上でね、やっぱりこう、質問をするべきではないのかなっていうふうに思っております。ここは要望陳状の場じゃありませんので……（笑い声）あくまでも、いやこれ笑い事じゃないんですよ。

制度っていうのは、やっぱり、ここまで地元でやりたいけれども、ここから先っていうのはどうしても行政の力を借りなきゃいけないといったときに、僕は一般質問の熟度の増した意見交換ができると思うんですよ。

ですので、ぜひ、等議員さんだったら当然できると思っておりますので、この件に関して言えば、よく地元でまず話をしてもらって、その上で、これ調整池でありますので、それを公園にするというのは、ほかのところも例があります。そういった上で足らざる部分っていうのは、しっかりね、そこはサポートしていきたいと我々も思っておりますので、ぜひ、そういった議論を、まず地元からおこしてほしいなというふうに思っております。

借りたお金は返しましょう。

○議長（杉原豊喜君）

4 番山口等議員

○4 番（山口 等君）〔登壇〕

この場所も、非常に先ほど天満宮で遊んでる近くの広場なんですけど、こういったところに、ぜひ子どもの遊び場ができていけばいいなと思っております。

はい、次の質問に移っていきます。まちづくりの 1 つ目の質問であります。

街路事業についてでございます。平成23年の12月に、長期的な都市計画の道路の見直しについてということで質問をさせていただきました。そのときの答弁が、平成24年度から大幅に見直していきたいというふうなことの答弁をいただいています。その後どのように進められるのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

おはようございます。

早期未着手都市計画道路についてですけれども、都市計画道路として決定しましたが、決定後30年以上経過している路線、あるいは、路線を対象に、平成25年度で見直し、検証業務を実施しております。廃止、または存続する路線及び代替えとなる路線、各路線ごとに検証をしまして、見直しの素案が今できあがった状態です。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

素案がまとまった状態ということなんですけれども、その後の見直し、また都市計画道路の決定に向けては、どのようなことで進めていく予定なのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

今年度はこの素案を元に、県や都市計画審議会などの関係機関と協議をいたしまして、もちろん地元説明会も開催をしながら、都市計画の変更に向けて手続きを進めてまいりたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

地元説明会等で進めていくということでございます。

現在整備中であります中野御船山線、通常、西浦通りというところなんですけど、ここの道路ですね。ここの今の進捗状況と、今後この道路の計画等はどのように進めておられるのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長（発言する者あり）

○森まちづくり部長〔登壇〕

都市計画道路の中野御船山線につきましては、いま現在、中町通りの入り口まで道路拡張

工事が今完了しているところであります。今後は、宮野町入口までの道路拡張、これは 18 メートル手前と一緒にすけれども、事業の認可を受けて進めておりますけれども、街路事業の国の財政投資が厳しく、2、3年程度、事業を延伸せざるをえない状況となっているというふうなことであります。今年度は建物補償、あるいは用地補償、建物調査等をする予定をしております。

○議長（杉原豊喜君）

4 番山口等議員（発言する者あり）

○4 番（山口 等君）〔登壇〕

これは中町通り、左側行ったところですね。ここまでいきます。宮野町の通りの入口の交差点までが中野御船山線というんですけど、この先、内町地区になるんですけども、この内町地区で、5月の29日、皆さんも御存じだと思んですけど、午前9時頃、住宅地の建物火災が発生いたしました。ここの道路が、非常に道路幅員が狭くて、そのときの消火活動も大変だったと思います。このときの消火活動等はどのような状態だったのか、お聞きいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

おはようございます。

議員さんおっしゃいます、5月29日に発生いたしました内町地区での民家、建物火災でございすけれども、火災の場所につきましては、先ほどの画面にありましたところから楼門のほうに抜ける道、内町迎田線と申しますけども、そのちょうど真ん中あたりから若干50メートルほど、こちらから行けば右側、東側のほうに入った地点でございす。午前8時54分に消防署のほうに通報がございまして、消防署の第1便が、約8分後現場に到着して、直ちに消火活動にあたっております。消防団につきましても、通報から18分後くらいに到着をいたしまして、団につきましては、消火栓からの消防車あるいは防火水槽への補給、あるいは直接の消火といったことで活動をやらせております。約1時間後に鎮火をいたしましたけれども、結果としては全焼ということでございました。

現場付近の条件につきましては、議員さんおっしゃいますように、道路の幅員が狭いということで、若干、消火活動には苦労があったようではございますけれども、時間帯につきましては、通勤とか通学の時間のあとということでもありまして、比較的歩行者も少なく通行車両もなかったということで、そういう面では大きな障害もなく消火活動ができたものというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4 番山口等議員

**○4番（山口 等君）〔登壇〕**

非常に道路幅員が狭くて、消火活動も大変だったと思います。

ちょっとこの近くの道路の写真なんですけども、手前のほうが石橋病院といいますか、幅は、ほんと3メートル50ほどしかないんですね。だから一般車両もなかなか離合ができないような状況でございます。それでまた反対側の清水院さんの近くの入るところなんですけど、ここの3.5メートルということで、非常に狭いと。この両端の間のところでも今回火災が発生したということで、この、内町迎田線というんですけど、大体200メートルぐらいが、1番狭いところでございます。

ここの街路の整備計画等ですね、もちろん中野御船山線が終わってから後だと思うんですけど、このあたりの整備計画はどのような状態になっているのかお尋ねいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

森まちづくり部長

**○森まちづくり部長〔登壇〕**

都市計画道路、内町迎田線の未改良区間、先ほどありましたように200メートルあったんですけども、武雄温泉街からの周回道路として、必要性を感じているところであります。

西浦通りのほうの街路事業が完了したあとに、引き続き整備をしなければならない幹線道路と考えているところであります。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

この内町のところは、なかなかうまくいかないんですよ。元々、歴史上、鍵のようになっているじゃないですか。

それと、なおかつここは、寺町のちょっと端っこだったというのもありましてね、これ、なんていうんですかね、これに手をつけるというのは非常に大変なことだというふうに思っていますので、我々とすれば、先ほど部長からもあったように、まず、できることからやるということです。できることから。

それと、もう1つが、計画を立てたときと今、相当ずれがある部分もありますので、そういったのも、よく地元の皆さんの意見を聞きながらね、計画ありきではなくて、そこは柔軟にやっぱり進めていく必要があるだろうと。もちろん、狭い3.5メートルが広がればいいという話になるんですけど、これももう地権者もね、説得とか、物すごく難しいんですよ。

ですので、それともう1つ、必要性がないとは言いませんけれども、先ほど申したとおり、計画を立てたときと今との、もう1回ちょっと整合性をちゃんとたてながら、そこは柔軟に、やっぱりやっていきたい。市民価値があがるように柔軟にやっていく必要があるだろうというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

確かに、いろんな諸問題も多いかと思えます。

この周回道路ができることによって、いろんな活性化もまた生まれてくると思いますので、ぜひ進めていってほしいなと思っております。（発言する者あり）

それでは、次の2つ目の子育て支援というところの質問をさせていただきます。

現在、放課後児童クラブが行われておりますけども、武雄市全体でどのような利用者数なのか。また、武雄小学校の放課後児童クラブはどのような人数なのか、そのあたりの推移をお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども部長

○諸岡こども部長〔登壇〕

おはようございます。

放課後児童クラブの利用者数でございますけども、放課後児童クラブにつきましては、留守家庭の小学校3年生までを対象に、市内11小学校で、13クラブを開設しております。

市内全体の利用者数でございますけれども、5年前の平成21年度は348人ございましたけども、平成25年度につきましては、467人に増加をしております。

御質問の武雄小学校の武雄児童クラブにおきましても、平成21年度は44人ございましたけども、平成25年度につきましては54人に増加をしております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

だんだんに、児童クラブを利用される方も、放課後児童クラブを利用される方も多くなっております。そんな中で、ことしの2月でしたか、私は保護者会の中で、ちょっと保護者の方のいろんな御意見を聞く機会がございました。

まず、ある保護者は、意見として、人見知りをしてひどい、人見知りがひどい子どもが、一見一緒に遊ぶような姿を見られて、ほっとしたというようなことがございます。そしてまた、宿題をして帰ってくるから非常に助かると。しかし、要望として、4年生以上はできんだろうかというようなことと、時間の延長、6時には、6時までなんですけど、6時半とか7時までとか、そういったことができないか、という意見もありました。

そして、児童クラブの場所ですね。武雄の場合は、今、家庭科室を使っておりますけども、固定された部屋ができないのかどうか、そのあたりの御意見がございました。

こういったことに対しての今対応は、どうされているのかお尋ねいたします。



○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども部長

○諸岡こども部長〔登壇〕

来年度からでございますけども、子ども子育て支援新制度の実施が見込まれておりまして、昨年度設置をいたしました子ども・子育て会議において協議を進めております。今後も、子どもたちの放課後の居場所づくりに努めてまいりたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと僕、部長との見解がちょっと違ってますね。これね、放課後児童クラブを拡充すればするほど、家庭と子どものかかわり合いであるとか、あるいは地域と子どものかかわり合いであるとか、学校に過度の負担をかけるという意味ではなくてね、学校と子どものかかわりというのが、僕は、あんまりこれやり過ぎると、ブラックボックスみたいになると思うんですよ。だから、おのずとそれは節度と制限というのがあると思うんですね。これあくまでも行政がやるっていうことは、これ皆さんたちの税金なんですよ、これ税金なんですよ。だからそういった形で、僕はあんまりこれは、確かに法律で、時間が延びたりとか、小学校の高学年まで延びるとかっていうことが、自治体で決められるようになるんですね、もう制度改正で。ここは、あまりやりすぎるのは、僕はだめだと思っています。ますます家庭の、あるいは家庭、学校、地域の子どものかかわりは、僕は弱体化していくと思いますので。それは僕はそういう意見ですので、子ども会、子育て会議には、そういう形で僕は望もうというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

今、武雄小学校も、非常に場所等でいろんな意見を言われておりますけども、今の武雄保育所が新しく移転するような状態でございます。そこが移転後ですね、そこを使うような計画が今のところあるのかどうか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども部長

○諸岡こども部長〔登壇〕

武雄保育所の移転後の跡地利用につきましてでございますけども、今後、市民の声をお聞きしながら、協議をしていくということになると思われまます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

地域の声もいいんですけども、やっぱりね、子どもたちが、児童クラブで快適な時間を過ごすという意味では、やっぱり新しいところがいいと思うんです、新しいところが。新しく、日当たりもよくてね、いいと思っていて。そういう意味だと、以前、吉川里己議員から御質問があったはずの朝日小学校の部分で、体育館の横の部分っていうのは、非常に劣悪な環境だったというのは、それは私自身も見に行っ、そういうふうには、こう思うんですよ。

だから、別に放課後児童クラブそのものを否定しているわけじゃなくて、どうせやるんだったら、子どもたちの目線にたってね、新しいところ、木の香りのするところがいいだろうというふうには思っていますので、そういう、ただだんに地域の声ばかりじゃなくてね、子どもたちの目線に立って、そういった選択をする必要があるだろうということは、思っています。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番山口等議員

**○4番（山口 等君）〔登壇〕**

確かに、古いところを使うということに、まだ耐震とか何とか必要なことがあるかと思えます。

また、放課後児童クラブで民間の施設を使えんかな、という考えもあるんですけども、そういうことによって、非常に、地域の方のおじいちゃんおばあちゃんの力を借りると。そういった部分で夕方を過ごすということになれば、いろんな、今核家族でございまして、そういった、おじいちゃんおばあちゃんの力を借りながら子育てをするというようなこと思うんですけど、そのあたりどのようにお考えなのかお尋ねします。

**○議長（杉原豊喜君）**

諸岡こども部長

**○諸岡こども部長〔登壇〕**

現在、全ての児童クラブにつきましては、学校内の施設を利用しておるところであります。

今後、地域の方々との触れ合いにつきましては、子どもたちの健全育成をはかる上で非常に有効なことであると考えておまして、地域等での施設利用についても、しっかり応援をしていきたいと考えております。（発言する者あり）

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

私は、公民館はそのためにあると思うんですよ。だからただね、ちょっと今ね、学校を1回議員さん見に行っ、ほしいと思うんですよ、1回ね。私も、ちょっと全部見たわけじゃ

ないんですけども、やっぱり結構劣悪ですよ。そこに、劣悪なとこにね、例えば改修とか新設とか、学校の端っこにね、ほおり投げたごととしてつくりよる場合もあるわけですよ。ですので、それは1回見てもらってね、そこにかかる予算と、公民館でお願いをするとき、これ、お金やっぱりいりますもんね。それと比較考慮っていうことが僕は必要だと思うんですよ。ですので、今後、これがますますふえていったときに、私は、一つの鍵は公民館だと思います、公民館。その上で、丸投げするわけにはとてもいきませんが、こんな大事な事業を、そこは行政としても、随時予算できちんと応援することになるかと思imasので、ぜひ、これね、川良で率先して、川良でやらん限り僕は変わらないと思imasので。(笑い声) ぜひそういう、それでね、せつかく区長さんも凄く優れたいい区長さんでありますので、朝長議員さん、等議員さん、地元のね、力を合わせてやってほしいなというふうに思っています。

そこでぜひ、川良モデルをつくって、介護は永島モデルでやりますよ。だから、この子育ての部分はぜひね、川良のモデル、そのモデルがやっぱりこう広がることによって、私はその広がりが一番大事だと思っておりますので、ぜひ御指導と御協力方をお願いをしたいと。

そういう意味では、等議員さんと朝長議員さんの果たした役割というのは、極めて大きいと思imasので、期待をして見守っていききたいと、このように思って応援します。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

確かに地域、我々の地区は、非常に世帯数も子どもも多いですよ。

〔市長「介護は永島」〕

ぜひ、きょう区長さんも見えていますけども、地域でそういったことが取り組んでいければ、非常に子どもたちのためにもいいんじゃないかなと思imasので、朝長議員と一緒にあって、頑張っていきたいと思imas。(発言する者あり)

そしたら、次の質問に移らせていただきます。

消防行政でございます。これも5月の29日の佐賀新聞でしたけども、武雄市職員をですね、33歳以下の男性、地域の消防団に加入という記事が出ておりました。(発言する者あり) このことは私非常に、地域の消防団にとけこんでいくというのはいいことだと思imas。そこを、どういった狙いでこういったこと考えられたのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

公務員というのは、やっぱりね、一般の市民の皆さんとはやっぱり違う、かなり違う責務を僕は有していると思imas。ですので、公務員たるもの地域に溶け込み、地域に頼り、地方公務員の場合は特にですね。ということが必要だと思っっていて、これもう6年前ぐらい

前からずっとこの思いというのはあって、常々、末籾消防団団長さん、前の大坪さんとはね、ずっと話をしてたんですよ。でもなかなかこれね、法の壁があるんですね。これね、消防団自体がボランティアなんですね。簡単にいえば。そこにこう強制してっていうのは、なかなかボランティアの団体にこう強制するって、しかも公務員を強制するっていうのは、なかなかこれ、シビアな問題なんですね。

ですが、よくよく考えたときに、そういった法の話も、それはもちろん大事ですけども、地域の皆さんたちの思いがあったときにね、私はよく消防団活動を、末籾団長が今、非常によくやってもらってますので、見たときに、やっぱり聞きます。なんであそこに住んどう市の職員が来んとですかとか。(笑い声) やっぱそうですよ。僕がね、消防団の団員だったら、そうやっぱ言いますよね。

ですので、そういったことからしてもね、なかなか入らなかった職員さんを、職員を、途中から入るとするのは難しいんで、だとするならば、初めっからね、30歳以下の男性の消防団への加入というのを、あらかじめ、やっぱ強制力を伴って申し上げてたほうが、本人のためにもいいのかなということは思っています。

ただし、それは地域の消防団、慢性的に、これは昔、牟田さんとも話したことあるんですけど、牟田議員さんとも話したことあるんですけども、やっぱりこう慢性的に、特に周辺部は足りないということもあって、若い人が足りないということもあって、その需要にも、多分満たせるということも思ってます。

いずれにしてもね、これはかなり賛否両論を議論を巻き起こしていますけれども、私としては、これはよく、法的にも調整をする必要があると思うんですけども、今年度の採用からね、これ条件にしようと思って。採用の条件。そんなね、消防団にね、入りたくないっていう人を取りたくないです、私は。任命権者として。ですので、これは条件にしたいというふうに思ってます。でもこれを条件にすると、また、はい。消防どころか火があがることにもなりかねないので……(笑い声)そこは制度設計は慎重にちょっとやっていきたいと思うんですけど、私の思いはぜひ条件にしたいということで。あした佐賀新聞にもこれ書いてくださると思うんでね。(笑い声)また議論を巻き起こしていきたい。このように思っています。やりたいと思います。(拍手)

**○議長（杉原豊喜君）**

傍聴者の方、拍手はしないように。

4番山口等議員

**○4番（山口 等君）〔登壇〕**

採用の条件にすると、そこまで言っていてありがとうございます。

私も20年間以上消防団に携わっていますけど、本当にいろんな貴重な体験をすることができます。

それで現状では、人材確保のために部長までされた方がその団員としてまた残っているという、そういう状況でもございますので、ぜひ若い方に入っていただいて、地域のために活動してほしいと思います。

ただ、現状としては、もう一つあるんですけども、在籍してはおるものの、なかなか活動をしきれん、まあ幽霊団員と言いますか、そういった方も多々あるようでございます。それで、報酬、退職時の報酬は、しかし、ちゃんとかう、きちっといただくという方もおられますので、そのあたりはぜひメリハリをつけていくべきじゃないかなと思いますけども、そのあたりどう思われるでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それは末藤団長の仕事でしょう。そう思いますよ。

幽霊かどうかというのはね、それでいただくかどうかで、我々は退職金の割り増しも、当然予算にも計上していますし、まあそれは末藤団長におっしゃっていただければありがたいと……（笑い声）このように思っております。

やっぱり、リーダーのリーダーシップだと思うんです。あるいは副団長とか分団長の、やっぱり背中を見てね、これはやっぱりいかにいかにということになるかと思っておりますので、ぜひまあ行政とすればね、その行政職員が幽霊になったら困るんでそこは言いますが、消防団全体としてはね、ちょっと、私たちに質問をいただくのはちょっとお門違いかなということは思っております。（笑い声）

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

消防団の末藤さん、よろしくお願いします。（笑い声）（発言する者あり）我々も頑張っていきます。

ただ消防団の今の状況の中、非常に団員の確保に頭を抱えてる中に、こういった市の職員が率先して地域に入っていきつつということは、非常にいいことだと思います。地域の若者と一緒にやって、コミュニケーション保ちながら、これからの武雄市のために、市民の明るい元気な気持ちを出すためにも、ぜひ若い方に加入していただいて、武雄市のためになればと思います。

以上で私の質問を終わりとします。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、4番 山口等議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため10分程度休憩をいたします。